

インスリン製剤における問題発生の現状と保険薬剤師の関わり

にいがた調剤薬局 / 内山 剛 飯田 美智子 飯田 陽子 吉川 周一
富樫 美津子 小片 真樹子 田原 清子 椿 芳恵
阿部 直美 川上 忍 渡部 陽子

【目的】 糖尿病患者の増加に伴い、インスリン使用患者と向き合う機会も増えているが、病院での指導の充実比べ薬局の対応は発展途上にあると言わざるを得ない。そこで薬局での指導事項を模索したいと考え、調査を行った。

【方法】 にいがた調剤薬局紫竹山店と村上店において、インスリン使用患者への聴き取り調査を行った。調査項目は、注射の使用部位、注射部位に関する問題点、日々の血糖値の変動、インスリン使用単位の管理状況、低血糖発現状況とした。

【結果】

注射部位は、101件中約95%の患者が「腹壁」のみで、「腹壁又は上腕外壁部」、「腹壁又は大腿部」が各々約2%、「大腿部」のみが約1%だった。そして部位に関する問題を訴えた患者は約8.9%であり、その内訳は、「部位が硬くなる」、「部位が真っ青になる」、「部位からインスリンが漏れてくる」というものがあり、いずれも部位を少しずつ移動させることにより対処できていた。

次に、インスリン使用単位の管理状況は、97件中医師の指示通り群が67件、医師の指導のもと使用単位の管理が許可されている(以下、自己管理群)は30件と、医師の指示通り群の方が多いという結果だった。日々の血糖状態が「ほぼ安定」と答えた患者は、医師の指示通り群で67.2%、自己管理群で45.8%であり、両者を比較すると差は見られなかった。また、半年以内の低血糖発現は全体の54.3%であり、この内医師の指示通り群で47.8%、自己管理群で72.0%の患者が低血糖を起こしており、低血糖発現頻度は自己管理の方が有意に高い頻度を示した。

【まとめと考察】

注射部位に関する問題の訴えは少数ではあったが、我々が持つ適正な注射方法の知識や、部位による吸収速度の違いなどを的確に情報提供することの必要性を感じた。インスリン使用については、医師の指示通りでの血糖のコントロール状況、自己管理においては使用単位の増減状況の確認等、それぞれの状況に合わせた指導が必要であると考え。自己管理群においては、自己管理が任されていて日々の血糖コントロールは良好であるとはいえ、安易な使用単位の増減は注意が必要であり、使用単位のコントロールの難しさが覗える為、低血糖発現の要因や対策について今後さらに検討する必要があると考え。以上のことから我々は、個々の患者の生活リズムや環境を考慮し、コンプライアンスチェックと低血糖の備えの確認をすることが重要と考える。更に場合によっては、医師や看護師と情報を共有する事により、患者が病院で受けた指導を日常的に実践するための支援方法を構築する義務があると考え。

